

東京教区パワーシフト・キャンペーン

ニュースレター No.3

どう電力会社を選ぼうか

どんな発電方法か、どんな会社を選ぼうか。

・先の講演会では、一見良さそうに見える再エネも、たとえばバイオ系燃料や輸入木質燃料による大規模バイオマス発電は、原材料産地における労働問題や長距離輸送によるCO2排出問題がありうることも学んだ。

「持続可能な再エネ社会への転換」を目指す会社を選ぶのは容易ではない。

・再エネ事業社の中には「国の制度」の盲点を突き不適切な事業で利潤をあげる事例や、森林伐採や土地改変を伴う形での大規模ソーラー開発や風力騒音など「環境破壊」を招いたケースが報告されている。再エネ事業は、「地域住民の生活の脅威」にならぬよう地域とどう調和合意し進めていくことができるか岐路に立たされているという。（6月22日NHKクローズアップ現代より）

「電源構成」って何？

電源構成とは、発電に利用される電源の内訳のことです。風・水力、太陽光など各種再生可能エネルギー、火力、原子力などです。パワーシフトでは、電源構成の中でCO2削減、原子力不使用などに注目すると自分たちの使いたいエネルギーが見えてくるかもしれません。「電源構成」を開示している電力会社は、FoEのリーフレットやホームページにも紹介されています。

5月30日講演会を受け、教区事務所でもパワーシフトの話し合いが始まりました。その一部をご紹介します。各教会の取り組みの参考になれば幸いです！

◇教区事務所の教役者、職員がそれぞれ所属する教会の様子などについて意見を交換しました。

教会A：ガスにより冷暖房しているので、急に電力への切り替えはできそうにない。だが、ガスはCO2排出が大きいので可能な時期に切り替えの検討も必要。また、ほかのSDG'sにも関わっていききたい。

教会B,C：教会委員会で検討チームを立ち上げた。今後、候補会社を選び評価し可能なら契約を進めていく。自然環境を守っていく意識を大事にしながら、適切な会社を選びたい。

教会D,E：新築や改築計画にあたり、教会の再エネの活用も検討項目になっている。また、エネルギー消費そのものを抑制するよう私たちも節電など生活スタイルを見直す必要がある。照明器具、家電など効率よいものを選び、また、部屋の遮光や換気など省エネも考えたい。

教会F：現況では契約上の縛りがあるので、しばらくはパワーシフト（PS）を行えないかと。

教会G：契約上の縛りがあったが、検討しそれを解約しPSを実施した。

◇難しい電力会社選び。それでも、少しでも「再エネ利用の増加」に努力する行動をしよう！

・これまでの電気は、各地域の電力会社が独占的に販売するものしかありませんでした。しかし、今は自由化され再エネを供給する電力会社が生まれてきています。まさに選択の時。会社に良し悪しがあるという前提を自覚して講演会で共に学びはじめました。

・私たちは、適正な電力会社を探すことを含めて、再エネの問題と向き合う必要があると思います。再エネがいくら進んだとしても、電力全てが再エネ100%に切り替わることはないだろうと言われていています。そのなかであって、教会や個人が、少しではあっても再エネ利用を高めることによって、CO2の排出と核廃棄物の発生を抑制していくことに係わっていくことに意味があると考えています。

◇教区事務所パワーシフト、どう進めていくか／今後の予定◇

8月の会議で、各自それぞれ会社を選んで持ち寄り検討を行う。（パンフレット・HPから会社探訪）

- ・会社情報（理念、株主構成、主要取引先など）
- ・電源構成（CO2を排出しない、原発を含まない）
- ・ほかに会社を応援する理由（特長、地域性など）

その後9月に契約、10月にパワーシフトを目指す。

